

北海道支部ニュース 第53号

日本分析化学会 北海道支部 2016 年 7 月

支部長挨拶

日本分析化学会北海道支部長
加藤 昌子 (北海道大学)



2016 年度の日本分析化学会北海道支部長を仰せつかりました北海道大学理学研究院の加藤です。分析化学会には 10 年前の 2006 年に北大に赴任した際に入会させていただきましたので、分析化学会ではまだまだ新人のつもりでございましたが、今回はからずも支部長の大役をお引き受けることになりました。北海道での教育・研究活動が 10 年になった節目であり、これもよいご縁と感じております。日本分析化学会北海道支部のために多少なりともお役にたてるように頑張りたいと思います。

北海道支部は分析化学会 7 支部の中で最も小さな支部でありながら、一致団結して活発な活動が続けてきたことは支部の皆さまがよくご存じのとおりです。私も入会当初から、「分析化学会北海道支部は人使いが荒い」と皆さんがにこやかに語りながら支部活動を楽しんでおられるのが印象的でした。

本年度も例年同様の活発な活動が予定されています。7 月には第 32 回となる緑陰セミナーが、北海道薬科大学の三原義広先生を実行委員長として旭川にて開催されます。あわせて九州支部との若手交流事業が北海道大学地球環境科学研究所の山田幸司先生のお世話で行われます。この支部ニュースが発行される頃には報告記事も間に合っ、最新ニュースとして詳細がご覧いただけるものと思います。また、7 月下旬には化学系学協会北海道支部 2016 年夏季研究発表会が室蘭で行われます。分析化学会の担当は苫小牧高専の奥田弥生先生にお願いしております。11 月

には北海道地区化学教育研究協議会が山田幸司先生のお世話で札幌にて開催予定です。年明けの 2017 年 1 月には恒例の氷雪セミナーが行われます。第 52 回となる今年度のセミナーは、北海道教育大学の蠣崎悌司先生にお世話いただき空知郡南幌で開催予定です。ぜひ多くの支部会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。また、1 月下旬には化学系学協会北海道支部 2017 年冬季研究発表会が札幌で行われます。

今年度最大のイベントは、すでにご存じのとおり、分析化学会第 65 年会の札幌での開催です。北海道大学地球環境科学研究所の田中俊逸先生を実行委員長として、9 月に北海道大学での開催に向け着々と準備が進んでおります。北海道支部の皆さまには、実行委員や地元会員として大変お世話になりますがどうぞよろしくお願い申し上げます。一般講演や依頼講演のほかに、テクニカルレビュー講演、研究懇談会講演、特別シンポジウム、第 3 回アジア分析科学シンポジウム、特別公開シンポジウム：産業界シンポジウムなど、実に多彩なプログラムがあり、科学の様々な分野とのつながりがあり、産業界との直接的な関わりも深い分析化学会の特長となっています。今後は国際的なつながりもさらに発展していくことが期待されます。

私自身不慣れな点が多く、支部の活動も皆さまのご協力があるからこそ進めていくことができると思います。ますます活気ある支部になるよう努めたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

(かとう・まさこ)

これからの行事予定

2016 年 北海道地区化学教育研究協議会

本会は教育研究所附属理科教育センターと日本化学会北海道支部化学教育協議会で準備運営され、日本化学会および日本分析化学会両北海道支部から支援されている行事で、昭和 30 年代初頭から 60 年に渡って開催されています。化学教育に関する特別講演のほか、小中高校大学で化学教育に携わっている先生の提言も行われます。終了後、講師の先生も交えて懇親会も行われる予定です。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

期日：2016 年 11 月 5 日(土)

会場：北海道大学大学院地球環境科学研究院

講演：特別講演(日本化学会化学用語検討小委員会 下村 守 先生)および小中高等学校教諭並びに大学教員4名による研究発表(提言・取組)参加費・懇親会・申込方法などについては、日本化学会北海道支部のホームページ(http://homepage1.nifty.com/cs/jh/moyoshi_chikukagakukyoiku.htm)に近日掲載致します。もしくは、担当幹事山田(電話:011-706-2254 電子メール:yamada@ees.hokudai.ac.jp)までお問い合わせください。

(北海道大学大学院地球環境科学研究院・山田 幸司)



2016 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部 2016 年夏季研究発表会が、7 月 23 日(土)に室蘭工業大学(〒050-8585 北海道室蘭市水元町 27 番 1 号)にて開催されます(主催:日本化学会北海道支部、共催:日本分析化学会北海道支部ほか)。詳細は、日本化学会北海道支部のホームページを御覧ください。

(http://homepage1.nifty.com/cs/jh/moyoshi_happyokai.htm)

今回は 117 件の口頭発表が、6 会場で行なわれます。特別講演は 15 時 20 分から松橋博美先生(北海道教育大学函館校)による「固体塩基として

の酸化マグネシウム」、16 時 10 分から山本尚先生(日本化学会会長・中部大学総合工学研究所)による「分子技術」の 2 件が予定されております。

懇親会は同日 17 時 45 分より蓬峯殿(室蘭市宮の森町 1-1)にて行なわれます。室蘭工業大学から懇親会会場まで移動用バスが用意されますので是非御利用ください。

事前参加申し込みは既に締め切られておりますが、多くの会員の皆様が参加くださいますようお願いいたします。

(苫小牧工業高等専門学校・奥田 弥生)

第 52 回 氷雪セミナー

広い温泉(それぞれ二つの内風呂と露天風呂)につかりながら、北海道の未来に向けて皆で良いアイデアを考え出せたらと願っております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

期日：2017 年 1 月 8 日(日)13 時 30 分～

2017 年 1 月 9 日(月)11 時 00 分

会場：南幌温泉ハート&ハート(北海道空知郡

南幌町南 9 線西 15 番地)電話:011-378-1126, 交通手段:(1)新札幌バスターミナル発の夕鉄バス「南幌・栗山行き」に乗車「南幌温泉前」で下車(所要時間 50 分)詳しい時刻は夕鉄バスのホームページでご確認ください。(2)札幌市中心部から車で約 45 分、(3)道央自動車道「江別東 I.C」から車で約 10 分、(4)送迎バスは検討中です。

<http://nanporo-onsen.ambix.biz>



スケジュール :

1 日目 異なる分野の専門家から北海道の現状と将来見通しを紹介(講演、3件)

2 日目 総合ディスカッション(北海道の分析化学者による意見・提案・討論等)

演題 : 北海道の農業・食品・教育の現状、将来

と問題等について3名の専門家話題提供

1. 「ワインの化学と微生物学(仮)」:
曾根輝雄氏(北海道大学農学研究院)
2. 「食べ物の美味しさを物理で考える」:
金田 勇氏(酪農学園大学農食環境学群)
3. 「北海道における初等・中等理科(化学)教育と「理セン」の役割」:伊藤崇由氏(道立教育研究所附属理科教育センター)

懇親会 : 講演会終了後、南幌温泉内で開催。

参加費 : 約1万3千円(参加人数により変更)

申込方法 : 氏名・勤務先・所属・連絡先を明記の上、E-mail あるいは郵送にてお申し込みください。

申込先 : 002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号、北海道教育大学札幌校(化学) 蠣崎悌司(かきざきていじ)

電話 : Tel 011-778-0685

E-mail : kakizakt@sap.hokkyodai.ac.jp
(北海道教育大学札幌校・蠣崎悌司)

これまでの終了行事報告

第51回 氷雪セミナー

第51回氷雪セミナーは、これからの50年に向かう新たな一歩として、平成28年1月10日(日)、11日(月)の両日、札幌北広島ホテルクラッセで開催されました。メインテーマとして、“北海道のエネルギー・環境に関わる現状・将来への見通し”を掲げ、北海道内でご活躍の3名の方々に話題提供をいただきました。

1. 北海道のバイオマス有効利用 (松田 従三様=写真1=、ホクレン農業総合研究所)
2. 災害としての雪、資源としての雪 (石井 吉之様=写真2=、北海道大学低温科学研究所)
3. 天然ガスの普及拡大とスマートエネルギー社会の実現にむけて (伊藤智徳様=写真3=、北海道ガス株式会社)



第1日目は、北海道支部長の宇都先生に開会のご挨拶をいただいた後、夕方までに3件の講演すべてをお聞きました。参加者は、31名(大学等24名、企業7名)で、多くの方々による質疑応答がきわめ

て活発に行われたことが印象的でした。講演終了後は同ホテルにて懇親会が開催されました。片岡先生にご挨拶と乾杯の音頭をとっていただき、各テーブルでそれぞれの話題で盛り上がった後に参加者がそれぞれ個性的な自己紹介をとても和やかな雰囲気でした。郊外のリゾートホテルということもあって、2次会も同ホテル内で行われました。温泉

もとても評判がよく、ゆったりとした時が流れました。

2日目は、ホテル最上階の見晴らしのよいレストランで朝食を済ませた後、谷先生を座長として開始されました。各講師の方に前日の講演のまとめや追加項目などの説明をいただき、テーマに関わる個別の質疑応答、さらに、これらのテーマと分析化学との関わりを考える全体ディスカッションというスケジュールで進行了ました。全く異なる分野の3件のご講演はいずれも新鮮で情報量も多く、いろいろな意

味でモチベーションの上がるひとときになりました。

ご講演を快くお引き受けくださった講師の先生方、ご参加いただいた方々、そしていろいろな面でこの企画をサポートしてくださった方々に、心から感謝申し上げます。

なお、来年度(平成28年度)の冰雪セミナーは、蠣崎悌司先生(北海道教育大学札幌校)のお世話で開催されることになっています。

(北海道大学大学院工学研究院・藤吉亮子)



「第51回冰雪セミナー」参加者集合写真、札幌北広島ホテル クラッセにて

化学系学協会北海道支部2016年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部2016年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2016年1月19日(火)・20日(水)の両日、北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催されました。194件の一般講演(口頭発表94件およびポスター発表100件)と1件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。特別講演には、東京大学大学院工学系研究科の堂免一成先生をお招きし、「高効率・大面積化を目指した水分解光触媒シートの開発」と題してご講演いただきました。また例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定さ

れ、各所属校で受賞者へ表彰状を授与しました(口頭発表8件、ポスター発表5件)。参加登録者数は437名(一般132名、学生305名)でした。1月19日(火)の18時から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。堂免先生を含め63名の参加のもと、盛況な会となりました。懇親会場は昨年2015と同じくレストランエルムでしたが、参加者の昨年37名から63名への増加は早期予約会費を昨年2015の一般5,000円、学生2,000円からそれぞれ4,000円、1,000円に減額したことによりです。但しお料理等に変化はありませんでした。次年度へさらなる学生の懇親会参加を期待します。

2014 年冬季研発表会から、経費削減と実行委員の負担軽減のため要旨集の電子化と参加申込の web 登録(受付での用紙記入による当日登録の廃止)を実施し、方式変更 3 年目でしたので問い合わせも少なく、当日の受付においても混乱は生じませんでした。要旨集電子化と web 登録そのものについては、概ね評価をいただいております。来年以降の冬季研でも引き続き行われるかと思えます。今年 2016 冬季研の受付ではプログラム集と企業広告を冊子体とせずに冬季研オリジナルクリアフ

イルに挟んで配付しました。これまでプログラム集はぶんせき誌1月号へ掲載してきましたが、これを断念して 12 月発行の北海道支部ニュース第 52 号にプログラム集を暫定版として掲載し、支部会員へお知らせすることにしました。この変更は、発表申込み及びプログラム編集の日程からぶんせき1月号への会告投稿が困難であること、さらに冬季研情報の Web 一元化によるものです。今後とも冬季研の運営にご理解とご協力いただければ幸いです。



分析化学賞(石田晃彦氏)



分析化学賞(大津直史氏)



奨励賞(佐々木隆浩氏)

また、1 月 20 日(水)16:15 からフロンティア応用科学研究棟1F セミナー室にて、北海道分析化学賞(北海道大学大学院工学研究院 石田晃彦氏、講演演題:「簡易分析のためのバイオ・化学システムおよびマイクロ流体システムの構築」)、同分析化学賞(北見工業大学機器分析センター 大津直史氏、講演演題:「ナノ表面分析の活用による生体機能型金属材料の開発とその評価」)、同奨励賞(室蘭工業大学大学院工学研究科 佐々木隆浩氏、講演演題:「核磁気共鳴および電子スピン共鳴による π 共役系ラセン高分子の構造解析」)、及び同功労賞(北海道大学触媒化学研究所 大澤雅俊氏、同大学院水産科学研究院久万健志氏)への授賞式および講演が行われました。

前出の冬季研冊子体の配布廃止に伴って、例年冬季研プログラム集に掲載していた授賞式次第及び授賞講演要旨集は、日本化学会北海道支部(奨励賞(若手、高校生部)及び同化学グランプリ北海道支部長賞)の各賞と合わせた冊子を新規に装幀して配布いたしました。

(北海道教育大学札幌校・蠣崎 悌司)



(左から)宇都、久万、大澤、石田、大津、佐々木各氏

第32回 分析化学緑陰セミナー

第32回分析化学緑陰セミナーが2016年7月2日(土)、3日(日)に旅亭「雪の屋」(旭川市)で開催され、道内各地の大学から46名の参加がありました。今年度は、北海道大学の志水陽一先生より「イメージング質量分析法によるPET診断用低酸素イメージング剤の腫瘍内集積メカニズムの解明」、北海道薬科大学の戸上紘平先生より「呼吸器疾

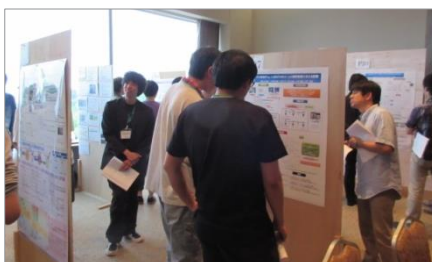
患の治療を指向した肺内薬物動態の解析及び肺投与型ドラッグデリバリーシステムの構築」、北海道教育大学釧路校の境智洋先生より「理科教育と科学技術コミュニケーション」、佐賀大学の梅木辰也先生より「CO₂化学吸収液の探索と分子間相互作用の解明」と、薬学、理科教育、溶液化学に関係する分析化学の技術や教育に関する依頼講演



を4件行いました。また、参加者によるポスター発表が20件あり、審査員の採点によって4件の優秀ポスター賞を授与できました。学生グループワークでは「卒業研究」をキーワードに、お酒を飲みながら自由に連想しながら模造紙にまとめ、発表し、一般参加者と議論しました。「卒論は教育の一環であり、社会に出るための訓練の場である」という教

員の意識と「やらされているという思いが強く、なぜやるのか理解できていない」という学生の意識にすき間を感じる場面はありましたが、「卒業研究で学ぶ考える力や自己管理の方法は、これからの将来にきっと役立つ」という学生の意識にも触れました。懇親会では参加者同士の活発なディスカッションが飛び交い、非常に有意義な会になりました。

(北海道薬科大学 三原義広)



(左上から時計回りに)

▶火打石の使い方を体験する参加者

▶ポスターセッション風景

▶セミナー会場の様子

▶第32回緑陰セミナー
集合写真

---旅亭「雪の屋」にて---



2016 年度 支部役員



支部長 副支部長 庶務幹事 会計幹事 監査 他	加藤 昌子 伊藤 慎二 福嶋 正巳 三浦 篤志 南 尚嗣 坂入 正敏 谷 博文 宇都 正幸 黒澤 隆夫 参与 19 名 幹事 40 名	北海道大学 北海道薬科大学 北海道大学 北海道大学 北見工業大学 北海道大学 北海道大学 北見工業大学 北海道医療大学
事務局秘書 氏間 多伊子	〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目北海道大学理学研究院内 公益社団法人日本分析化学会北海道支部 支部長 加藤 昌子 TEL : 011-706-3817 E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp	

2016 ・ CALENDAR



開催日	事業名	開催地	担当幹事
-----	-----	-----	------

【2016 年】

4 月 26 日 (火)	第 1 回幹事会	札幌	支部長
7 月 2-3 日 (土-日)	第 32 回分析化学緑陰セミナー	旭川	三原義広
同上	若手交流事業 (九州支部から講演者来訪)	同上	山田幸司
7 月 23 日 (土)	2016 年夏季研究発表会	室蘭	奥田弥生
7 月中旬	支部ニュース第 53 号	-	久保溪女 三原義広
9 月中旬	2017 年度役員候補者選考委員会	札幌	支部長
10 月予定	第 2 回幹事会	札幌	支部長
未定	2016 年度公開セミナー	苫小牧	奥田弥生
11 月予定	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	山田幸司
11 月上旬	2017 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2016 年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会	札幌	支部長
12 月中旬	支部ニュース第 54 号	-	久保溪女 三原義広

【2017 年】

1 月 8-9 日 (日-月祝)	第 52 回氷雪セミナー	空知郡 南幌	蠣崎悌司
1 月下旬	化学系学協会北海道支部 2017 年冬季研究発表会	札幌	福島正巳
1 月下旬	2016 年度北海道分析化学各賞授賞式	札幌	支部長
2 月下旬	審議会(第 3 回幹事会)	札幌	支部長

2015 年度 会計報告の概要

【支 出】

臨時雇賃金	240,000
会議費	75,962
旅費交通費	268,850
通信運搬費	59,674
消耗品費	43,325
印刷製本費	16,442
支払助成金	280,000
内部支払助成金	363,947
委託費	38,556
表彰費	93,850
雑費	3,510
支出合計(B)	1,484,116

【収 入】

支部費	830,000
印税収入	122,343
受取利息	225
収入合計(A)	952,568
当期収支差額(A-B)	△531,548



支部会員の欄

この欄では北海道支部の転入や転出、新入会などの情報をお伝えします。「ぶんせき」誌(2016 年 1 月号～6 月号)「お知らせ欄」から転載。

なお、今春以降にご入会の会員は次号に掲載させていただきます。

新入会のみなさん (敬称略、順不同)

対馬 敦志 (株)環境テクニカルサービス
 原田 千穂 (北見工業大学大学院)
 田中 淳 (北海道大学)
 堀 皓詞 (北海道大学大学院)
 若尾 撰 (北海道大学大学院)

編集後記



支部ニュース第 53 号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました加藤支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

支部の活動をニュースとしてまとめる作業に携わり、改めて一つ一つの支部活動が長年継続して行われていることに驚きます。今回、新入会の皆様を迎え、今後も益々活発な支部活動となるように尽力してきたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

(編集委員 : 久保溪女、三原義広)

公益社団法人日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市北区北 10 条西 8 丁目北海道大学理学研究院内

支部長 加藤 昌子

TEL : 011-706-3817

E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL : <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース第53号

編集・発行

公益社団法人

日本分析化学会北海道支部

発行日

2016 年 7 月 20 日